

令和7年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動テーマ

『里山の恵みを次世代へ 自然の恩恵から生まれる 森林健康サービス産業の構築』

活動団体の活動地域：広島県 広島市、安芸太田町

活動団体名：特定非営利活動法人 広島横川
スポーツ・カルチャークラブ

中間支援主体名：一般社団法人
地域商社あきおおた

中間支援主体としての獲得目標と達成状況

■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

- ・ 活動団体との距離感をさらに縮めながら「喝を入れる」「癒しとなる」という支援手法の獲得を目指したい
- ・ 活動団体から頼りにしてもらえるようになること、また、各ステークホルダーからの信頼を得ることを目指したい

■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

・ 「チェンジ・エージェント機能」のプロセス支援である「喝を入れる」という支援手法については、夏場に活動団体メンバーの本業が多忙なため本事業が停滞した際に、複数回にわたり論点整理の場を設け、本年度の活動内容とスケジュールの明確化を促した。

また、目先のステークホルダーミーティング開催だけでなく次年度以降のプロジェクト推進や出口戦略検討の必要性等を説明し長期的視野に立つよう促すことができ、その結果として専門家招聘による事業創出に向けた研修会を実施できた。

・ 変革促進である「癒しとなる」という支援手法については、困った際にはいつでも相談ができるよう配慮し、安心して取り組みを進めることができていた。

・ 活動団体から頼りにしてもらえるようになったが、各ステークホルダーからの信頼は十分とは言えず、次年度以降の課題となる。

中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する				
	意味づける				
	癒しとなる	◎	事業主体が安心してプロジェクトに取り組む為	◎	事業主体が納得しながら進めることができた
	見通しをつける				
プロセス支援	話を聞く				
	場を開く				
	喝を入れる	◎	正しいと思われる方向へ導く必要性がある	◎	目先だけでなく長期的視野に立つよう促した
	現在地を確認する				
資源連結	新しい人を入れる				
	事例を紹介する				
	引き出す				
	拡散する				
問題解決提示	文字や図に落とす				
	問いを立てる				
	会議を進行する				
	落としどころを探る				
その他	※必要に応じて追加				

今後の中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献 【R7年度当初目標】

DMOとして目指すべき観光地域づくりの実現のために、地域循環共生圏の概念を取り入れ、町内に地域循環共生圏づくりを広げる。

また、地域の事業主体同士に加え、住民や各種コミュニティ、行政、ならびに他地域や、国が進める政策等の社会の潮流とも地域をつなぐようなハブとなり、より多くの地域が持続可能になることに貢献していく。

■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェント機能での分類
事業創出に向けた伴走支援役	・ 事業を生み出すというアクションサイクルに特に注力するため、具体的な活動計画が遅滞なく推進できるよう、全ての具体的な支援策を駆使し、「先手を打つ」ことを意識しスピード感を持って取り組む。	問題解決提示
人、資金、情報などに関する地域の内と外との繋ぎ役	・ 特に資源連結が重要となると考え、外部の事例や有識者紹介、あるいは新たな事業ステークホルダーを外部から招き入れたり、町内外への事業成果の拡散などの打ち手をとる。	資源連結

■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

事業の出口戦略立案に向けた、既存の事例共有や新規補助金等の情報共有